

新収蔵品紹介

玉那覇正吉作「灯のともるところ」1975年制作、P100号

玉那覇正吉（1918～1984）は1944年に東京美術学校（現在の東京芸術大学）に入学、石井鶴三教室にて彫刻を学びました。戦後、首里儀保町にあった西森の美術村に居をかまえ、彫刻・油絵の分野で沖展、春陽会会員として活躍し、また琉球大学教育学部美術工芸科教授となり、後進の指導にあたりました。特に沖縄では唯一の彫刻の研究會である「槐会」を結成し、彫刻の普及に尽力をつくしました。

「灯のともるところ」は第52回春陽会に出品された作品です。アクリルの絵具で描かれた直線的

な絵は作者の真正直な性格を表しており、バックの廃船によって厨子甕とランプが強調されています。厨子甕・廃船・ランプなどは作者が好んだモチーフです。1987年、海邦国体の一環として、当館で開催された特別展「沖縄近代の絵画―物故作家―」に展示された後、御遺族の玉那覇吉子氏より寄贈されました。

なお、玉那覇氏の御厚意に対して、1988年12月に日本博物館協会より感謝状と記念品が贈呈されました。

平成元年度特別展へのご招待

「インドネシアの更紗展」

会 期 平成元年11月1日(水)～11月26日(日)

※ 入館料は特別料金となります。

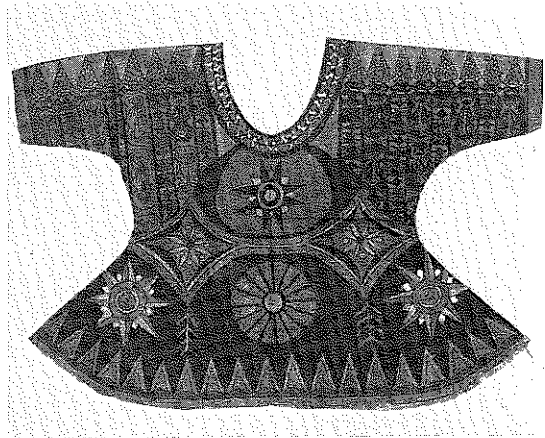
沖縄の染色は東南アジア諸国の影響を受けて発達したと言われています。しかし、今までこれらの国々の染色品を直接見る機会はほとんどなく、その全貌を知るには不十分でありました。

今回の展示会で紹介する更紗は、蠟を使うジャワ更紗をはじめとして、手描の更紗、金彩を施した更紗など、インドネシアの各島々で制作されたものです。

インドネシアの人々が生活のなかで、壁掛けや儀式用の衣装として、実際に生活のなかで用いてきた更紗がほとんどで、沖縄の染織文化との関係やインドネシアの社会と文化の一端を知るうえで意義深いものです。

なお、今回の展示会は、岡田コレクションの膨大なインドネシア染織品のなかからえりすぐった

もので、東京・富山・沖縄・秋田の各県を巡回するものです。



描き染上衣

「大アンデス文明展」

会 期 平成2年1月23日(火)～2月24日(土)

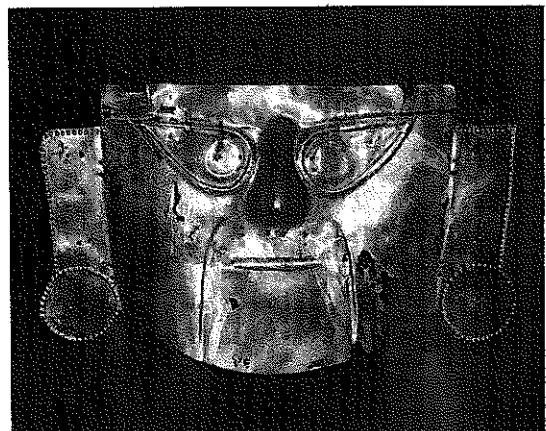
※月曜日休館但し2月12日は開館

入館料(予定) 大人－500円、高・大生－400円

小・中生300円(前売券・団体券は100円引き)

アンデスと言えば「インカ帝国」といわれるほど、インカ帝国は有名です。15世紀半ばから16世紀半ばにかけて、ペルーを中心に、北はエクアドルから南はチリ中部にいたる延長約4,000kmに及ぶ高原や海岸地帯を支配した大帝国でした。ところがアンデスにはインカ以前にもいろいろな時代の興亡があり、その歴史は数千年にも及びます。

今回の特別展は、児童・生徒にとって教科書で学んだインカ帝国の実体を見る絶好の機会であり、また、ペルーへの移民が多い本県にとって、南米ペルーを理解するのにまたとない展覧会です。



日本初公開の黄金マスク

平成元年度博物館の展示会および文化講座のご案内

特別展

- ・「インドネシアの更紗展」
会期 11月1日(水)～11月26日(日)
- ・「大アンデス文明展」
会期 平成2年1月23日(火)～2月24日(土)

企画展

- 新収蔵品展
期間 5月16日(火)～6月4日(日)
- 第13回 移動博物館
会期 5月27日(土)、28日(日)
場所 南大東村離島振興総合センター

文化講座

- 第175回 考古学から見た宮古・八重山の歴史
日時 4月22日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 金武正紀
定員 なし
- 第176回 蔡温とその時代
日時 5月20日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 糸数謙治
定員 なし
- 第177回 ラン科植物の花のしくみと
進化について
日時 6月24日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 横田昌嗣
定員 なし
- 第178回 琉球漆器・螺鈿をめぐって
日時 7月22日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 前田孝允
定員 30名
- 第179回 沖縄の古窯
日時 8月12日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 小渡清孝
定員 なし

- 第180回 親子民具教室
日時 8月27日(日)、PM2:30～PM4:30
講師 外原 淳
定員 30組
- 第181回 冊封使と琉球
日時 9月9日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 富島壮英
定員 なし
- 第182回 ニシキヘビの増殖と利用
日時 10月21日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 大谷 勉
定員 なし
- 第183回 特別講演 インドネシアの更紗
日時 11月3日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 吉本 忍
定員 なし
- 第184回 沖縄の戦後芸能史
日時 12月16日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 大城 学
定員 なし
- 第185回 特別講演 神秘と幻想の世界
日時 平成2年1月27日(土)、
PM2:30～PM4:30
講師 増田義郎
定員 なし
- 第186回 特別講演 南米ペルーと沖縄
日時 2月10日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 石川友紀
定員 なし
- 第187回 琉球の書
日時 3月10日(土)、PM2:30～PM4:30
講師 屋部憲次郎
定員 なし

※ 問い合わせ先
県立博物館案内コーナー ☎(0988)86-4492

昭和63年度の主な動き

今年度は「ヤンバルの自然展」、「三線名器100挺展」の二つの特別展と企画展「新収蔵品展」を開催しました。また、移動博は第12回目をむかえ、与那国町で実施しました。

●特別展

「ヤンバルの自然展」は昭和63年8月12日から10月2日まで開催しました。1階ロビーから自然展示室・企画展示室にかけて貴重な動植物の実物標本や写真・解説パネルによって展覧され、ヤンバルのすばらしい自然を紹介しました。

「三線名器100挺展」は数ある名器のなかからえりすぐった100挺を型別に分け展示し、また会場の一角に実演コーナーを設けました。期間は昭和63年11月1日から11月27日まで開催し、期間中、三線鑑定会を実施しました。

●移動博物館

第12回目の移動博物館は日本の最西端に位置する与那国町にて開催しました。会場の離島振興



「ヤンバルの自然」展示風景



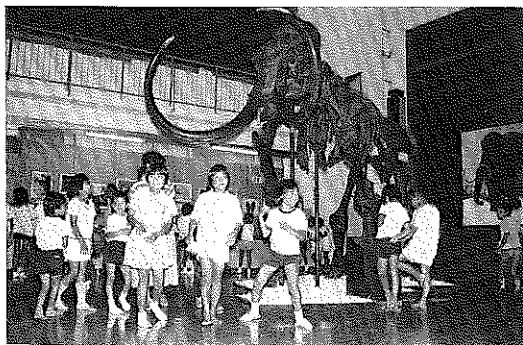
「三線名器100挺展」展示風景

総合センターには小・中学生をはじめとして、同町の約半数の方々が見学し、盛況のうちに閉幕しました。

●文化講座

今年度の文化講座は161回から174回まで14の講座を開きました。今年度最後の文化講座第174回「紅型の型紙」は県工芸指導所の金城純子先生をむかえ、紅型のもとである型紙をとおして、紅型の美しさを紹介していきます。

当館では、平成元年度の文化講座は13回を予定していますが、この回数でいきますと平成2年では200回を迎えることになります。



第12回移動博物館



文化講座「拓本教室」

沖縄県立博物館だより No. 29

発行年月日 平成元年3月28日

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1

TEL 0988-86-4353

84-2243